

雨水流量計算の計算例

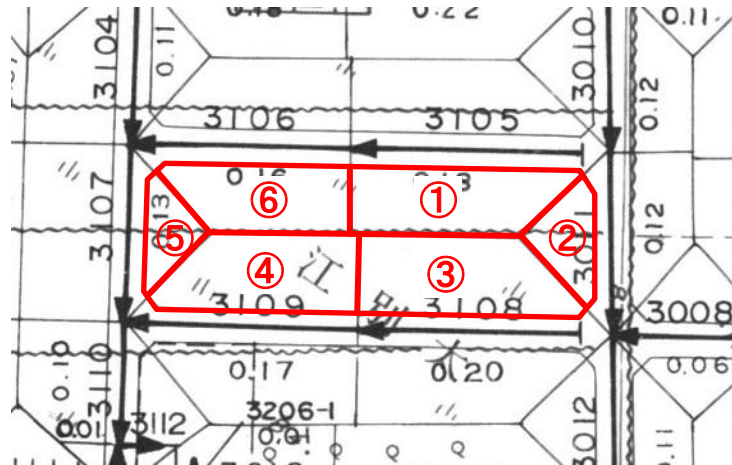
設計条件

- ・分流地区
- ・許容流出係数 C=0.6

排水区画割平面図により各排水管の受け持つエリアを確認する。



設置予定の建物、外構により①～⑥について各々平均流出係数を求める。



- ①は {屋根(0.9) × 屋根部分の面積 + 舗装(0.85) × 舗装部分の面積 + 間地(0.3) × 間地部分の面積} ÷ (①の面積) = A
- ②は {屋根(0.9) × 屋根部分の面積 + 間地(0.3) × 間地部分の面積} ÷ (②の面積) = B
- ③は {屋根(0.9) × 屋根部分の面積 + 舗装(0.85) × 舗装部分の面積 + 間地(0.3) × 間地部分の面積} ÷ (③の面積) = C
- ④は 舗装(0.85) × 舗装部分の面積 ÷ (④の面積) = D
- ⑤は 舗装(0.85) × 舗装部分の面積 ÷ (⑤の面積) = E
- ⑥は 舗装(0.85) × 舗装部分の面積 ÷ (⑥の面積) = F

①の場合、Aが0.6以下ならそのまま雨水管3105に接続できますが、0.6より過大な場合は流出抑制が必要となります。

以下同様に②は3011の雨水管、③は3108、④は3109、⑤は3107、⑥は3106となります。

また区画割をまたいで流域を受け持つ管以外に接続する場合は、その部分を加算して流量計算を行うこととなります。

* 流出係数は地区によって異なりますので、設計前に必ずご確認ください。